

# 入郷遺跡

—町道 156・176 号線改良工事に伴う発掘調査報告書—

2023 年 3 月

公益財団法人和歌山県文化財センター





調査区全景（東上空から）



調査区全景（上空から）



## 序

入郷遺跡は、伊都郡九度山町に所在し、紀の川の支流である丹生川西岸の台地上に位置します。本遺跡は、縄文時代の石鎌やサスカイト剥片が採集されたことで知られた散布地で、東西約300m、南北約200mの範囲に広がっています。

今回の発掘調査で、新たに中世の掘立柱建物跡や溝等の居住の痕跡が確認され、遺構の埋土から中国製青磁碗や白磁皿、滑石製石鍋等が出土しました。

縄文時代の散布地というだけでなく、中世においても周辺地域の人々の生活の広がりを考える上で貴重な調査成果を得ることができましたので、ここに調査成果を取りまとめ調査報告書を刊行いたします。この成果が当該地域の歴史を知るうえで一資料となれば、幸いに存じます。

最後となりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたり、ご指導、ご助言をいただきました関係各位の方々、地元の方々に深く感謝申し上げます。

令和5年3月15日

公益財団法人和歌山県文化財センター

理 事 長 櫻 井 敏 雄

## 例言

1. 本書は、和歌山県伊都郡九度山町入郷に所在する入郷遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は町道156・176号線改良工事に伴うもので、発掘調査業務は令和3年度、出土遺物等整理業務は令和4年度に実施した。
3. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、九度山町の委託事業として和歌山県教育委員会（以下、「県教育委員会」という。）の指導のもと、公益財団法人和歌山県文化財センター（以下、「当センター」という。）が実施した。
4. 発掘調査業務及び出土遺物等整理業務に要した経費は、九度山町が負担した。
5. 現地調査業務に際し、各関係機関並びに近隣の方々から多大なご協力を得た。
6. 発掘調査業務及び出土遺物等整理業務にかかる体制は以下のとおりである。  
発掘調査業務（令和3年度）及び出土遺物等整理業務（令和4年度）

事務局長（管理課長） 平林 照浩

埋蔵文化財課長 高橋 智也

発掘調査・出土遺物等整理業務 田之上 裕子

7. 遺構・遺物の写真撮影及び本書の編集・執筆は田之上が行なった。
8. 基本的に、調査区名、遺構名は発掘調査時のものを踏襲した。
9. 発掘調査業務及び出土遺物等整理業務で作成した実測図・写真・台帳等の記録資料は当センターが、出土遺物は県教育委員会が保管している。

## 凡例

1. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006.4）に準拠して行った。
2. 発掘調査及び本書で使用した座標値は、平面直角座標系（平成14年国土交通省告示第9号）VI系、標高は東京湾平均海面（T.P.+）の数値であり、単位はmを使用している。方位は、座標北（G.N.）を用いた。
3. 土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人 日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄 編・著『新版標準土色帖』（2018年版）を使用した。
4. 遺構・遺物の縮尺は、各挿図に明記した。また、遺構・遺物写真等の図版縮尺については任意であり、統一していない。
5. 調査で使用した調査コードは、21-08・005（2021年度－伊都郡九度山町・入郷遺跡）で、記載資料はこのコードを用いて管理している。

## 本文目次

第1章 位置と環境 .....	1	第3章 調査の方法 .....	4
第1節 地理的環境 .....	1	第1節 地区割の設定 .....	4
第2節 歴史的環境 .....	1	第2節 調査の手順 .....	8
第2章 調査の経緯と経過 .....	2	第4章 調査成果 .....	8
第1節 調査にいたる経緯 .....	2	第1節 基本層序 .....	8
第2節 発掘調査の経過 .....	3	第2節 調査の成果 .....	8
第3節 出土遺物等整理作業の経過 .....	3	第5章 まとめ .....	19

## 挿図目次

図1 周辺の遺跡位置図 .....	1	図9 141溝・142土坑 平面図・土層断面図 .....	13
図2 地区割図 .....	4	図10 18土坑・58土坑 平面図・土層断面図 .....	14
図3 調査区 全体図 .....	5	図11 18土坑・58土坑 出土遺物実測図 .....	15
図4 東壁・南壁土層断面図 .....	6	図12 その他の遺構土層断面図 .....	16
図5 南壁土層断面図・土層注記 .....	7	図13 187溝・188溝 平面図・土層断面図 及び出土遺物実測図 .....	17
図6 第3層上面・第1～2層・第2層 出土遺物実測図 .....	9	図14 その他遺構内出土遺物実測図 .....	18
図7 1掘立柱建物跡 平面図・ 土層断面図 .....	10		
図8 16土坑平面図・土層断面図 及び出土遺物実測図 .....	13		

## 表目次

表1 出土遺物観察表（土器） .....	20	表2 出土遺物観察表（石器・石製品） .....	22
----------------------	----	--------------------------	----

## 写真図版目次

卷頭図版	上 調査区全景(東上空から)	2. 58土坑出土の土師器
	下 調査区全景(上空から)	羽釜(50)(南から)
写真図版1	1. 調査区全景(東から)	3. 92柱穴 土層断面(南から)
	2. 南壁土層断面(中央部・南から)	写真図版6 1. 32柱穴 石検出状況(西から)
	3. 南壁土層断面(西部・南から)	2. 141溝・142土坑 土層断
写真図版2	1. 1掘立柱建物跡(北西から)	面(南から)
	2. 60柱穴(1掘立柱建物跡)土	3. 179溝 土層断面(南から)
	層断面(南から)	写真図版7 1. 187・188溝 完掘状況
	3. 70柱穴(1掘立柱建物跡)土	(南から)
	層断面(西から)	2. 187・188溝 完掘状況
写真図版3	1. 35柱穴内 土師器皿出土	(西から)
	状況(南から)	3. 188溝 土層断面(西から)
	2. 29柱穴内 土師器皿出土	写真図版8 出土遺物
	状況(東から)	写真図版9 出土遺物
	3. 29柱穴 土層断面(南から)	写真図版10 出土遺物
写真図版4	1. 18・58土坑内 遺物出土	本文写真1 灯明皿検出状況
	状況(北から)	本文写真2 現地説明会風景
	2. 18土坑内 瓦器検出状況(南から)	本文写真3 出土遺物洗浄作業
	3. 18・58土坑 完掘状況(北から)	本文写真4 土器実測作業
写真図版5	1. 調査区西部全景(西から)	本文写真5 デジタルトレース作業

# 第1章 位置と環境

## 第1節 地理的環境

入郷遺跡(5)は、伊都郡九度山町の北部にある。河岸段丘に沿って流れる紀の川の支流である丹生川西岸の中位河岸段丘である台地の突端部上に位置する。

紀の川は、奈良県の大台ヶ原に水源を発する一級河川で、中央構造線に沿って形成された構造谷の間を西流して、和歌山平野を通って紀伊水道に注いでいる。北側を和泉山地、南側を紀伊山地に挟まれた、狹小な谷間に紀の川が流れ、両岸に河岸段丘を形成しており、原始・古代からそれらの段丘の突端部に人々が居住した痕跡が確認されている。

## 第2節 歴史的環境（図1）

原始・古代から続く人々の生活域は、紀の川の氾濫原を避けて、狹小な低位段丘や中位段丘上に拠点を求めた。戦国時代には、段丘上や山塊の頂を利用して山城が築かれている。

**旧石器時代** 紀の川上流域での生活域はごく希薄な状態である。

**縄文時代** 敷散地である当遺跡以外、周辺で居住構造は確認できていないが、橋本市の芦生小島遺跡・市脇遺跡、伊都郡かつらぎ町の渋田遺跡・船岡山遺跡等には居住の痕跡が認められる。



図1 周辺の遺跡位置図

1 真田古墳 3 慈尊院中小路地先遺跡 4 慈尊院Ⅱ遺跡 5 入郷遺跡

8 岡氏居城跡 9 真田屋敷跡 10 桜ノ尾砦跡

出典：和歌山県埋蔵文化財包蔵地図による

(遺跡番号は和歌山県埋蔵文化財包蔵地図による)

<https://wakayamaken.geocloud.jp/webgis/?z=15&ll=34.225%2C135.166&t=gsi&mp=4>

**弥生時代** 橋本市の血縄遺跡・上田遺跡・市脇遺跡・名古曾Ⅲ遺跡・高尾遺跡、かつらぎ町の佐野遺跡・船岡山遺跡等で集落跡が確認されている。大和・和泉・河内との文化交流が搬入された土器等の調査成果からみられる。

**古墳時代** 当遺跡と同じく、紀の川左岸に位置する慈尊院Ⅱ遺跡(4)で竪穴建物跡が確認されており、土師器や須恵器が出土している。本遺跡の北方、丹生川を挟んだ対岸の段丘上に真田古墳(1)があり、昭和28年の調査で横穴式石室をもつ円墳であることが確認され、現在も石室が残存している。

**古代** 奈良に都のあった7～8世紀では、紀の川筋は南海道の主要な道であり、伊都・那賀郡の境にある妹山と背山(兄山)は、畿内と畿外の境界であったとされる。

**中世** 当遺跡から西方の谷を挟んだ尾根の中腹には、岡氏居城跡(8)がある。本遺跡の北方、丹生川を挟んだ対岸には、真田昌幸・信繁親子が幽閉された真田屋敷跡(9)がある。

**近世** 紀の川の河岸から河床に位置する慈尊院中小路地先遺跡(3)と慈尊院Ⅱ遺跡(4)では、近世の堤防構造が地表面で確認されており、結晶片岩を積んだ堤防や河岸に沿った土壘状の高まりがみられる。慈尊院Ⅱ遺跡の北東には下乗石建立跡があり、下乗石建立跡の西方、慈尊院Ⅱ遺跡の北方には、史跡高野参詣道町石道の一部として指定されている嵯峨浜五輪塔石塔がある。

## 第2章 調査の経緯と経過

### 第1節 調査にいたる経緯

九度山町により伊都郡九度山町入郷地内において町道156・176号線改良工事が計画され、その予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である「入郷遺跡」に該当することから、令和3年3月24日付け九建第190号で九度山町長から和歌山県教育委員会（以下、「県教育委員会」という。）へ文化財保護法第94条に基づく埋蔵文化財発掘の通知が提出された。これを受けて県教育委員会によって確認調査が実施され、その成果に基づいて県教育委員会より九度山町教育委員会へ事業地内において埋蔵文化財の記録保存調査が必要である旨の通知が平成31年3月25日付け文第03250007号された。

また、確認調査により、遺跡範囲外の西側において埋蔵文化財の展開が確認されたことから、文化財保護法第95条、和歌山県文化財保護条例第27条及び同施行規則第16条第5項の規定に基づき、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更が令和3年度に実施された。

令和3年11月25日付け九建第133号で九度山町長から県教育委員会に記録保存目的の本発掘調査の依頼があった。これを受けて令和3年11月30日付け文第11300001号で県教育委員会より公益財團法人和歌山県文化財センター（以下、「当センター」という。）に実施計画書提出依頼があり、令和3年12月14日付け和文セ第281号で実施計画書を県教育委員会教育長及び九度山町長へ提出した。その後、令和3年12月15日付け文第11300001号の



写真1 灯明皿検出風景

2で県教育委員会より発掘調査の実施について依頼があった。これに基づき、当センターと九度山町は、令和3年12月22日付けで「町道156・176号線改良工事に伴う入郷遺跡発掘調査業務」として九度山町と契約を締結して町道改良工事予定地のうち調査対象484.0m<sup>2</sup>において記録保存を目的とした本発掘調査を行った。

なお、発掘調査は県教育委員会指導の下、令和4年1月31日から令和4年4月16日にかけて実施した。

## 第2節 発掘調査の経過

契約後、当センターにおいて、和歌山県地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第55条第1項及び県教育委員会の事務処理の特例に関する条例第2条に基づき、令和3年12月24日付け和文セ第297号で和歌山県護法第92条第1項の規定に基づく発掘調査届出書を九度山町教育委員会を経由して、県教育委員会に提出した。

発掘調査は、当センターが「町道156・176号線改良工事に伴う入郷遺跡発掘調査業務」として、九度山町より委託を受けて実施した。発掘調査にあたっては「町道156・176号線改良工事」について受託業者である紀伊建設株式会社から、重機と掘削作業員の提供を受けた。

令和4年4月16日に現地説明会を行い、周辺住民ほか42名の参加をいただいた。



写真2 現地説明会風景

## 第3節 出土遺物等整理作業の経過

発掘調査で出土した遺物は、コンテナ(28ℓ/箱)で13箱である。出土遺物は、須恵器、土師器、瓦器、中国製磁器、石器、石製品等がある。

整理作業として、令和4年10月より遺物の注記、登録、土器の接合・補強、復元、出土遺物の実測、遺構・出土遺物の実測図面のデジタルトレースを行った後、挿図を作成した。遺物の補強作業の後、遺物の写真撮影を行った。各遺構と出土遺物を選出し、写真図版を作成した。以上の作業と原稿執筆を経て、令和5年3月に報告書を刊行した。



写真3 出土遺物注記作業



写真4 土器実測作業



写真5 デジタルトレース作業

### 第3章 調査の方法

#### 第1節 地区割の設定 (図2)

調査区の地区割は平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第9号)第VI系を使用し、入郷遺跡を網羅する北東に基点(X=-189,000m, Y=-40,000m)を設け、その点から大区画・小区画を設けて区割を行った。大区画は基点をA 1地点と定めて、西方向へ100mごとにB, C, D・・・、南方向に2, 3, 4・・・という軸を設定した1辺100m四方の区画で、北東隅の地区名を用いてA 1, C 3などと呼称する。大区画の北東隅をa 1地点として、そこから4mずつ西方向へb ~y、南方向へ2~25とそれぞれの方向に25分割し、一辺4mの正方形区画を小区画とする。小区画は北東隅の地区名からa 1区~y 25区と呼称する。地区名は、大区画-小区画(A 1-a 1区など)で表す。今回の調査区は、F 8区、G 8区の範囲内に相当する。

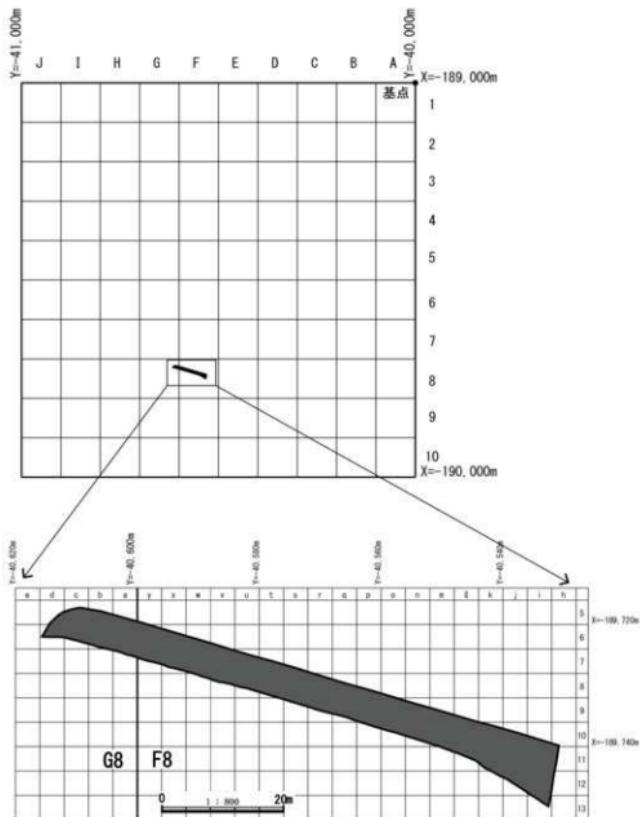


図2 地区割図

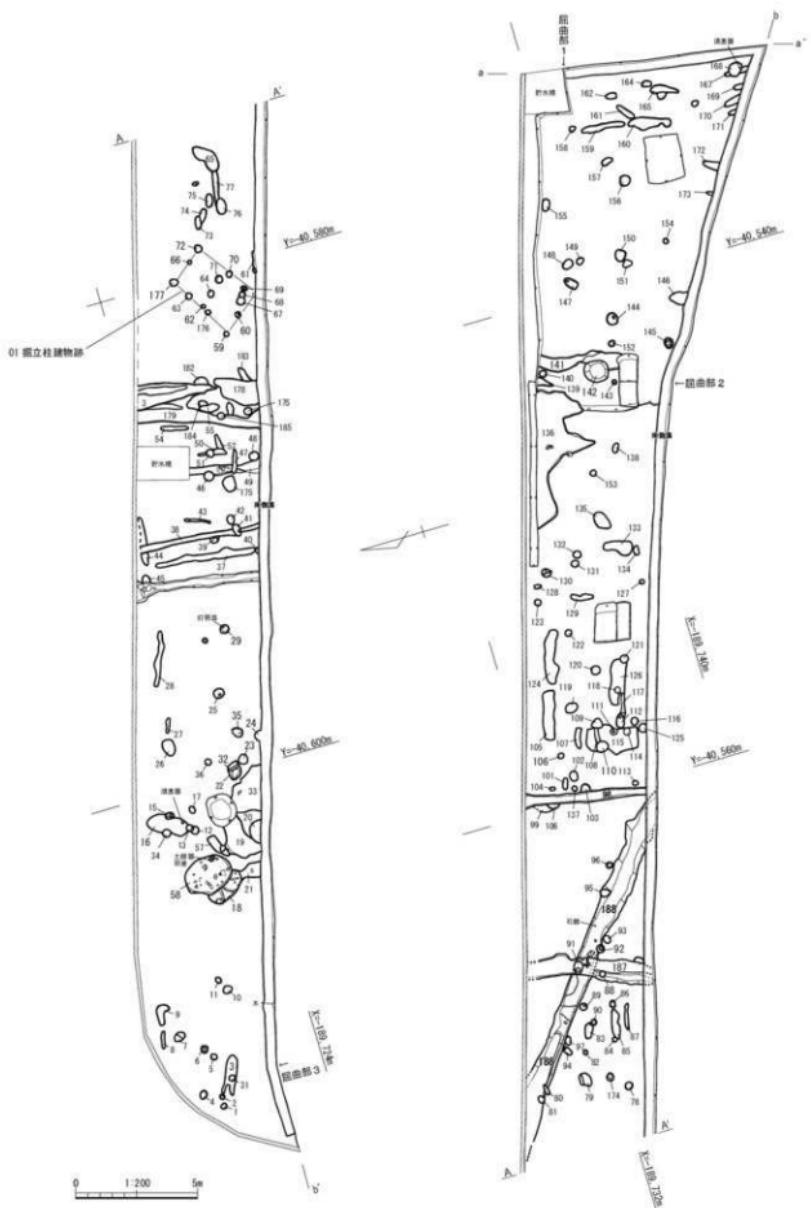
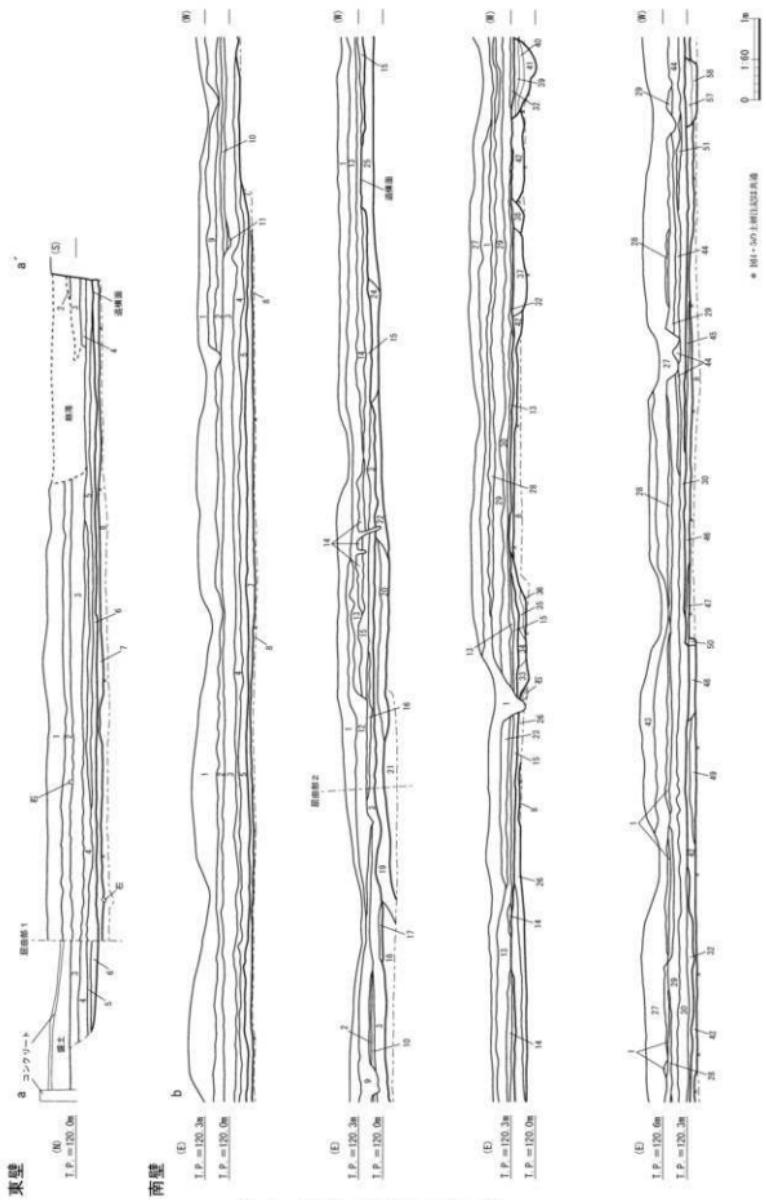


図3 調査区 全体図



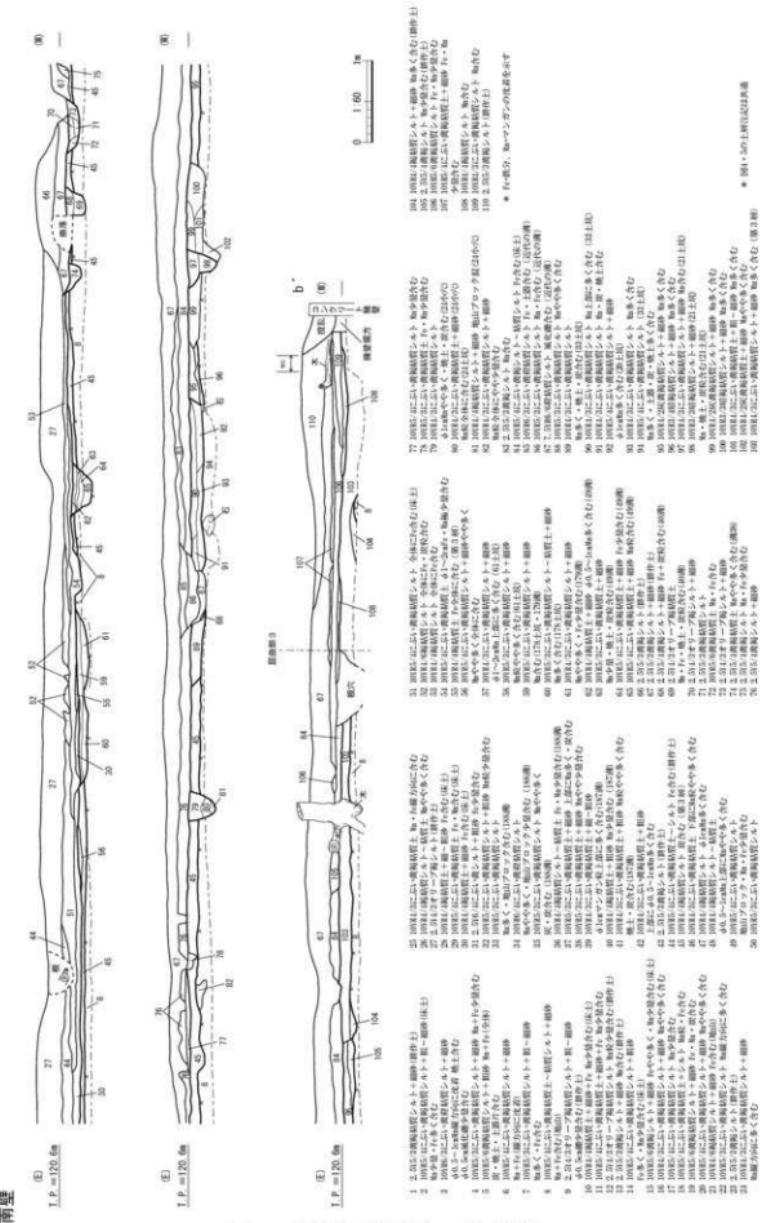


図5 南壁土層断面図・土層注記

## 第2節 調査の手順

調査区の重機による掘削は、県教育委員会による確認調査の成果を参考に、基本層序の第1層耕作土と遺構面保護のため第2層床土のうち、遺構面上より0.10mまで行った。その後、人力により第2層床土を掘削し、第3層（マンガン沈着層）上面で、遺構の検出及び掘削を行った。遺構面は、現地表面より0.30mの下方で検出した。遺構は堆積状況が確認できるように半蔵を行い、土層堆積を写真撮影及び実測により記録した後、完掘した。写真撮影は、調査区全景写真については中判デジタルカメラ、調査区全景及び土層断面、個別遺構の写真については35mmフルサイズデジタルカメラを用いて行った。実測作業については、全体図は縮尺1/20、土層断面図や個別遺構図等は縮尺1/20で手測りによって図化した。

## 第4章 調査成果

### 第1節 基本層序（図4・5 写真図版1）

今回の調査地における基本層序は、県教育委員会の確認調査の成果を参考に、現地にて次のように大別した。

第1層：2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト～2.5Y5/3黄褐色粘質シルト。近現代の耕作土。

第2層：10YR5/4にぶい黄褐色～10YR4/4褐色粘質シルト～粘質土で鉄分を多く含む。近代の耕作土の床土（遺物包含層）。

第3層：10YR5/3にぶい黄褐色～10YR4/4褐色粘質シルトで、径1～3cm礫や細砂を含み、マンガニン粒が多く沈着する。上面が中世の遺構面であり、標高は、東側でT.P.+119.80m、西側でT.P.+120.60mである。

第4層：10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト。西から東に向かって大きく傾斜し、標高は、東側でT.P.+119.70m、西側でT.P.+120.60mである。無遺物層で地山層である。

## 第2節 調査の成果

### 調査成果（図3～14）

遺構 中世以降の掘立柱建物跡1棟と建物を構成していない柱穴群、土坑、溝等を確認した。

1 掘立柱建物跡（図7 写真図版2） 調査区中央や西寄りのF 8-u 7・u 8、t 7・t 8区に位置する。2間×2間の掘立柱建物で、60柱穴、59柱穴、62柱穴、177柱穴、66柱穴、72柱穴、70柱穴で構成される。南西隅の柱穴は調査区外になり、検出できなかった。柱間は、桁行で1.50～1.60m、梁行で0.80～1.30m、桁行方向はN-30°-Sである。柱穴の直径は0.20～0.40m、深さ0.06～0.28mである。なかには、柱根と考えられる痕跡が見られる柱穴もある。T.P.+120.30～120.40mで検出した。埋土からは中国製青磁碗片、土師器片が出土したが、細片のため図化できなかった。埋土は、柱根部分が褐色～黄褐色粘質土、掘方方が褐色粘質土～にぶい黄褐色粘質シルトである。60柱穴は、径0.25m、深さ0.20mの掘立柱建物跡を構成する柱穴である。やや径が小さいが柱根と思われる痕跡があり、その埋土は褐色粘質土～にぶい黄褐色粘質シルトで、焼土と炭を含み、マンガンの沈着がみられる。70柱穴は、径0.25m、深さ0.25mの掘立柱建物跡を構成する柱穴である。埋土は黄褐色粘質土～明黄褐色粘質シルトで、上層で焼土

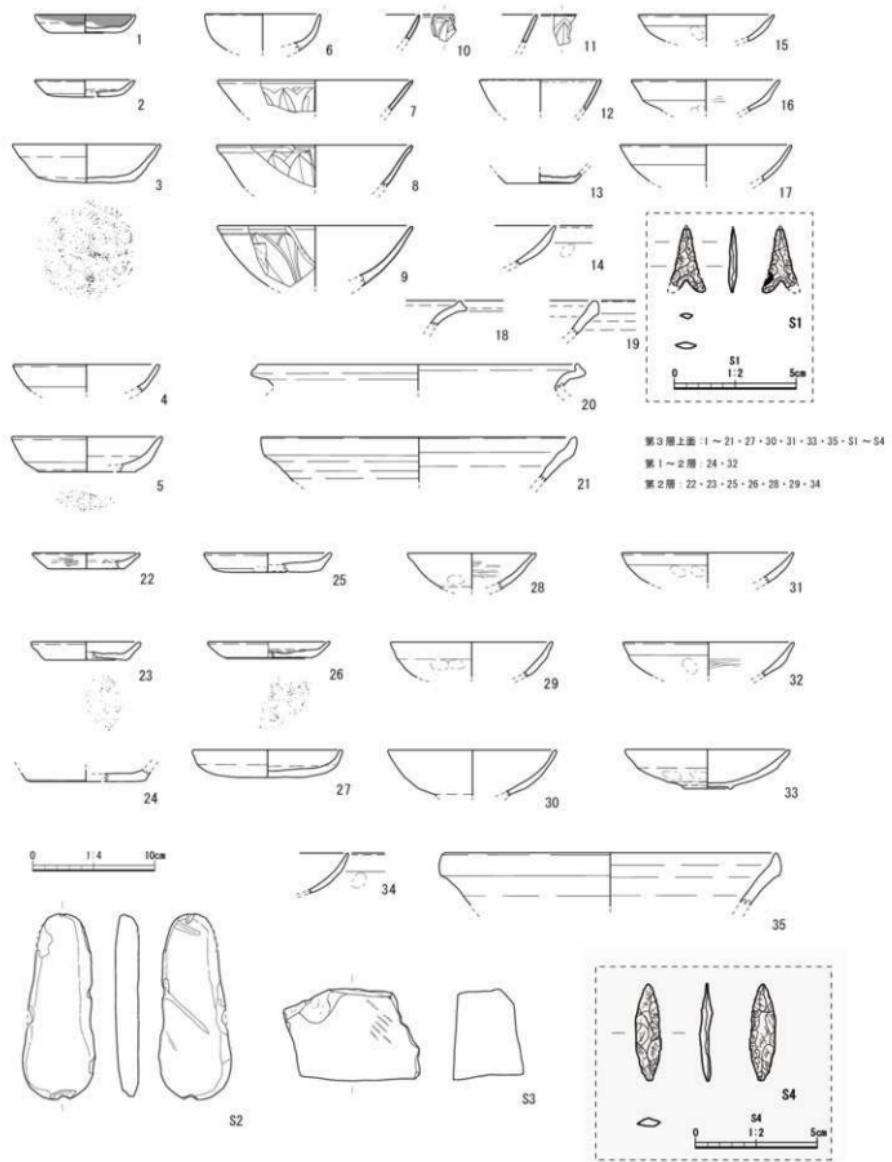


図6 第3層上面・第1~2層・第2層 出土遺物実測図

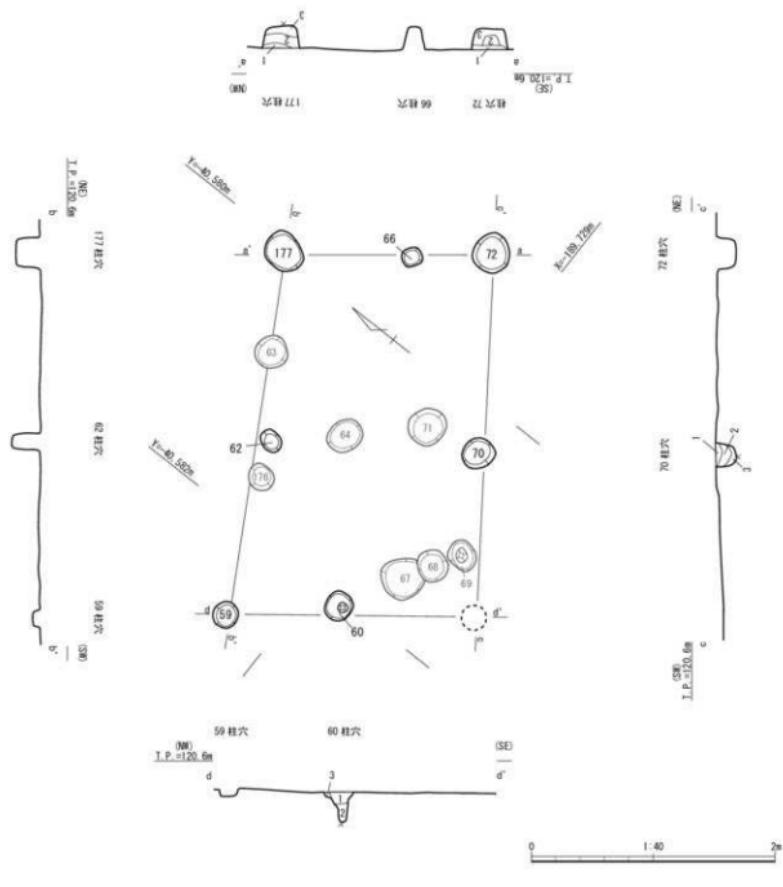


図7 1掘立柱建物跡 平面図・土層断面図

を含み、マンガンの沈着がみられる。柱根の痕跡はみられず、柱は抜き取られたとみられる。

その他、掘立柱建物を構成すると確認できなかったが、柱根と思われる痕跡がある柱穴や遺物が出土した柱穴について記述する。

**23柱穴** (図12・14) 調査区西のF 8-y 7区に位置する。径0.20m、深さT.P.+120.60mで検出した。埋土は、上層がにぶい黄褐色粗砂混じりの粘質土に多くの炭と焼土を含む。下層は、上層よりも砂粒が小さく、炭がやや少ない。マンガンの沈着がみられる。土師器皿(55)と瓦器碗(68)が出土した。

**29柱穴** (図12・14 写真図版3) 調査区西、F 8-x 7区に位置する。径0.35m、深さ0.34mの遺構で掘方の底部近くの東壁際で土師器皿(63)を灯明皿として使用したものが完形で出土した。柱根痕跡部分がにぶい黄橙色シルト、掘方がにぶい黄橙色粘質土である。T.P.+120.20mで検出した。

**32柱穴** (図12 写真図版6) 調査区西、G 8-a 6・7～F 8-y 6・7区に位置する。東西径0.60m、南北径0.50m、掘方の西寄の上部が長さ0.30mほどの平坦な石を据えている。柱の据える際の根石とした可能性がある。埋土は、上層が暗褐色粘質土、中層がにぶい黄褐色粘質土、下層は、灰黄褐色粘質土に細砂から粗砂が混じる。焼土と炭を含み、上・中層にはマンガンの沈着がみられる。T.P.+120.60mで検出した。

**35柱穴** (図12・14 写真図版3) 調査区西、F 8-y 7区に位置する。南北径0.45m、東西径0.34m、深さ0.13mの遺構で、ほぼ完形の土師器皿(62)が横倒しの状況で出土した。埋土は、柱根痕跡部分が砂混じりのにぶい黄褐色粘質土～褐色粘質シルト、掘方が灰黄褐色～にぶい黄褐色粘質土である。T.P.+120.30mで検出した。

**88柱穴** (図12・14) 調査区中央、F 8-q 9区に位置する。径0.23m、深さ0.24mの柱穴である。柱根の痕跡として褐色～にぶい黄褐色粘質土がみられる。埋土から土師器皿(54)と瓦器碗(65)が出土している。T.P.+120.4mで検出した。

**92柱穴** (図12 写真図版5) 調査区中央、F 8-q 9区に位置する。T.P.+120.4mで検出した。径0.23m、深さ0.35mの平面形が円形の柱穴である。径0.15mの柱根らしきの痕跡を検出した。柱根の痕跡は鉄分を多く含む黄褐色からにぶい黄褐色粘質土、掘方は鉄分を多く含むにぶい黄色シルトとオリーブ褐色粘質シルトである。

**106柱穴** (図12・14) 調査区中央、F 8-o 9区に位置する。T.P.+120.40mで検出した。径0.20m、深さ0.20mの平面形がやや橢円形の柱穴である。柱根の痕跡はみあたらず、埋土は、上層がにぶい黄色粘質土、下層がにぶい黄褐色粘質シルトである。瓦器碗(69)が出土している。

**110柱穴** (図12・14) 調査区中央、F 8-o 9区に位置する。T.P.+120.40mで検出した。径0.40m、深さ0.15mの平面がやや橢円形の柱穴である。土師器皿(53)が出土している。115土坑が埋没したのち掘削された。

**16土坑** (図8) 調査区西のG 8-a 6区に位置する。南北長1.70m、東西幅0.70m、深さ0.30mの平面が長楕円形の遺構である。T.P.+120.50mで検出した。遺構の北側上層で「C」の字状の焼土の集中が見られ、遺構の上層全体に炭と灰が混じった土が堆積し、下層に炭と灰が混じった粘質シルトが堆積しているが、底部と壁面に焼成痕がみたらない。カマドと推定できるが、カマドとしては焼成部分が少ないため、焼土や炭等を多く含む土坑とした。埋土は、上層が

炭混じりのにぶい黄橙色粘質シルト、下層が炭や焼土、灰混じりのにぶい黄褐色粘質シルトである。土師器の細片と須恵器が出土している。

**18土坑**（図10・11 写真図版4・8） 調査区西、G 8-a 6・b 6区に位置する。南北径1.50m、東西径0.80m、深さ0.90～0.15mの平面が長楕円形の土坑である。T.P.+120.60mで検出した。鎌倉時代から室町時代の土師器皿(36)、瓦器椀(46・48)、東播系須恵器捏鉢(51)等が出土した。18土坑が埋没後に58土坑が掘削されたと考えられる。埋土は、上層が粗砂混じりのにぶい黄褐色粘質土、下層が粗砂混じりの灰黄褐色粘質土で、焼土と炭、灰が混じる。

**58土坑**（図10・11 写真図版4・5・9・10） 調査区西、G 8-a 6・b 6区に位置する。南北径2.00m、東西径1.40m、深さ0.25mの平面が楕円形の土坑である。18土坑の東側を削平している。T.P.+120.60mで検出した。埋土の上層と底部で土師器皿(37～40・43～45)、常滑焼壺(41・42)、土師器羽釜(50)、瓦器椀(47・49)、東播系須恵器捏鉢(52)、中国製の青磁碗、口縁端部の釉をはぎ取った口禿げの白磁皿(43)、温石に転用した滑石製石鍋(S 5・S 6)、砥石(S 7・S 8)等の石製品が出土した。羽釜型石鍋の口縁部から鋸部にかけての破片と底部片で、底径が口径の半分ほどになる時期のものと思われる。このことからも鎌倉時代から室町時代の土坑と考えられる。埋土は、上層が細砂混じりのにぶい黄褐色粘質土、下層が細砂混じりの灰黄褐色粘質シルトである。焼土や炭、灰が混じり、全体的にマンガンの沈着がみられる。

18土坑と58土坑は、生活雑器である土師器皿、土師器羽釜片、瓦器椀等の破片が多く出土し、完形に近いものも多かった。土坑の底部と底部から0.10mほど上の地点で遺物の出土が多かつた。廃棄土坑の可能性もある。

**142土坑**（図9 写真図版6） 調査区東、F 8-k 10区に位置する。径0.90m、深さ0.42mの土坑である。T.P.+120.00～120.10mで検出した。埋土は、上層がにぶい黄褐色粘質土、下層が細砂～シルトがラミナを形成したにぶい黄褐色～黄褐色粘質シルトである。141溝が埋没した後、掘削された構造と考えられる。土師器、瓦器等が出土したが、細片のため図化はできなかつた。

**3溝**（図14 写真図版10） 調査区西のG 8-c 5・6～d 5・6区に位置する。長さ1.65m、幅0.45m、深さ0.20～0.60mである。西側が二股になって収束しており、東側も収束している溝である。T.P.+120.70mで検出した。埋土の上層は、にぶい黄橙色細砂から粗砂混じりのシルト、中層はにぶい黄褐色細砂混じりの粘質土、下層は褐色シルト～細砂混じりの粘質土である。上層から下層で、鉄分やマンガンの沈着がみられ、焼土や炭を含む。土師器皿(60)が出土した。

**9溝**（図14 写真図版10） 調査区西のG 8-c 5区に位置する。長さ0.83m、幅0.25m、深さ0.03mの浅い溝である。東端が南方にほぼ直角に曲がる。T.P.+120.60mで検出した。埋土は、にぶい黄褐色粘質シルトに焼土や炭が混じ、マンガンの沈着がみられる。結晶片岩製の硯(S 9)が出土した。

**141溝**（図9 写真図版6） 調査区東、F 8-k 10・11区に位置する。残存長3.30m以上、幅0.30～0.50m、深さ0.80mの浅い溝である。T.P.+120.00mで検出した。調査区外である北側へ続くと思われる。土師器、瓦器等が出土した。埋土は細砂混じりのにぶい黄褐色粘質土である。

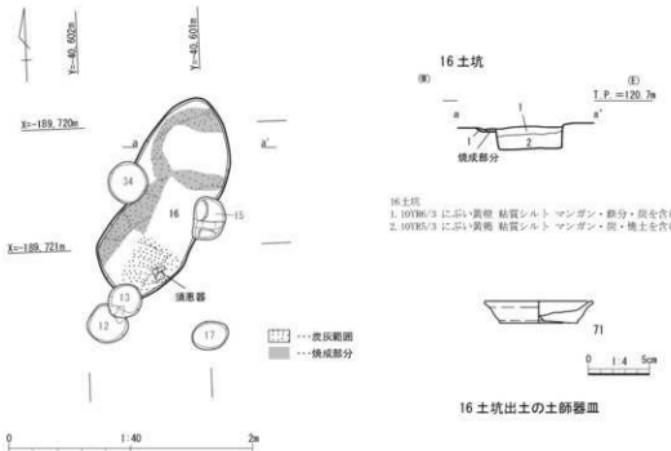


図8 16土坑平面図・土層断面図及び出土遺物実測図

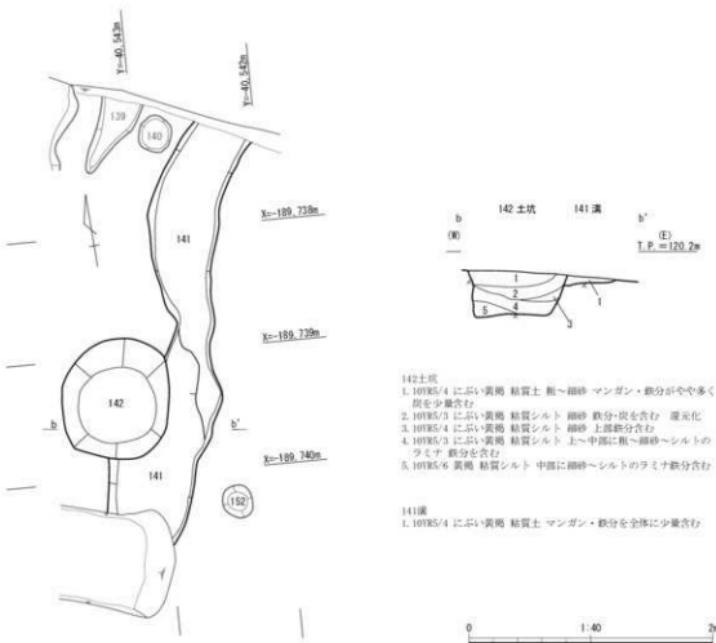


図9 141溝・142土坑 平面図・土層断面図

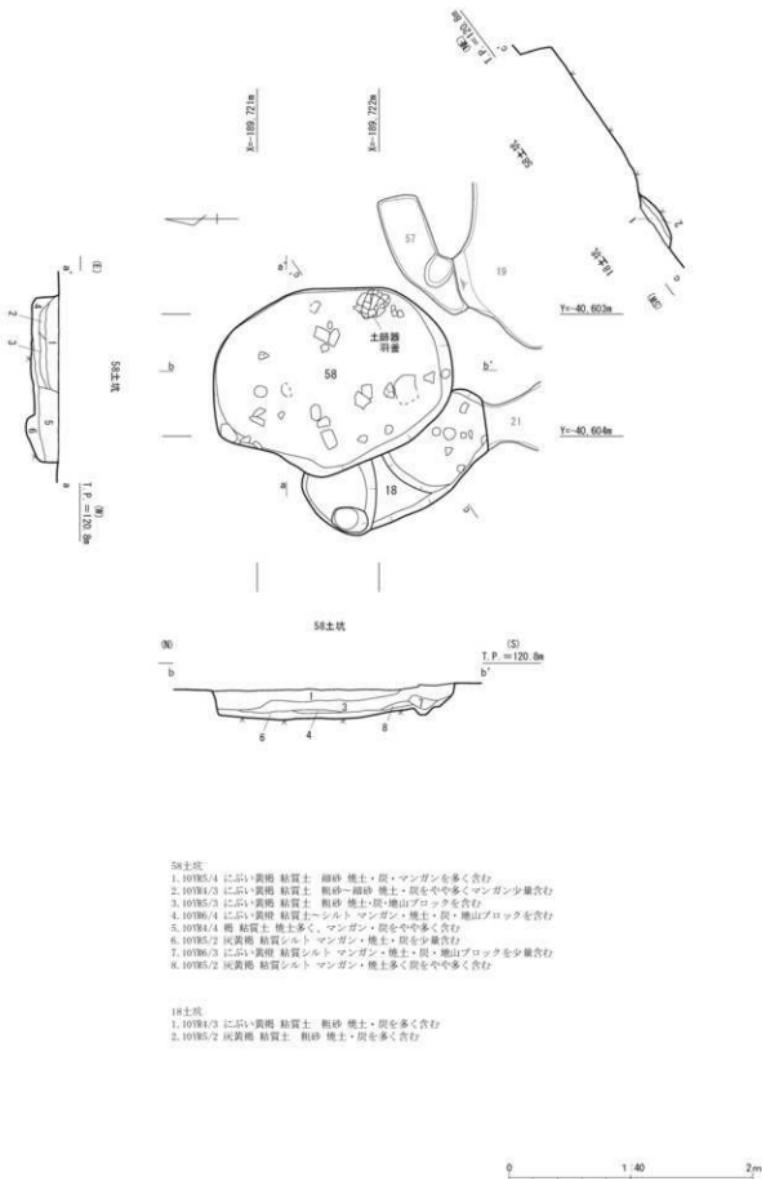


図 10 18 土坑・58 土坑 平面図・土層断面図

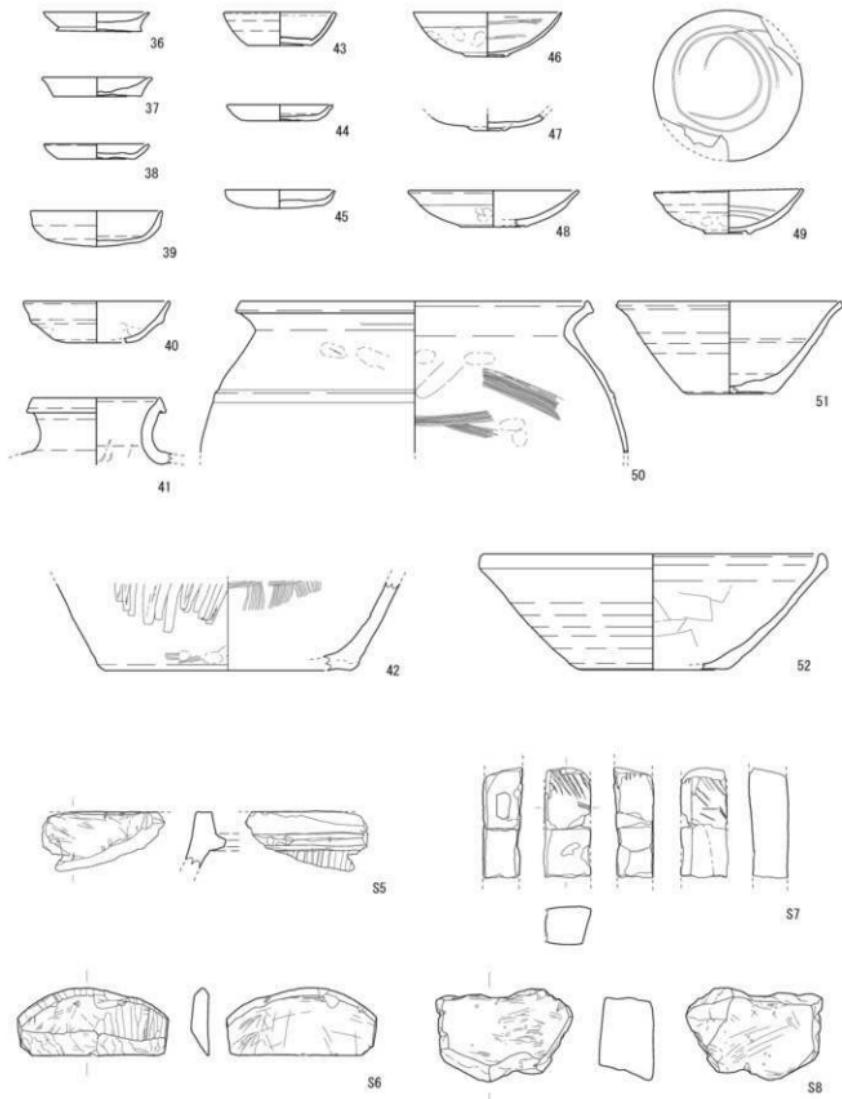
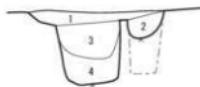


図 11 18 土坑・58 土坑 出土遺物実測図

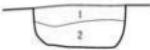
3溝

(S)



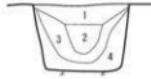
- 1 10YR6/3に近い、黄褐色シルト 粒・細砂  
層・礁土・マングン・鉄分含む
- 2 10YR6/3に近い、黄褐色シルト 粒・細砂  
層・マングン・礁土・鉄分含む
- 3 10YR6/4(褐色質土+細砂  
マングン・层・礁土含む
- 4 10YR4/6(褐粘質土+シルト)・細砂  
マングン・层・礁土含む

23柱穴

(N)  
T.P. = 120.8m

- 1 10YR6/3に近い、黄褐色粘土+粗砂  
マングン・礁土・地質含む
- 2 10YR6/3に近い、黄褐色粘土+粗砂  
マングン・礁土含む

29柱穴

(E)  
T.P. = 120.7m

- 1 10YR6/3に近い、黄褐色シルト  
層・礁土・マングン・表層に含む
- 2 10YR7/3に近い、黄褐色シルト 層・中間に鉄分を含む
- 3 10YR6/3に近い、黄褐色粘土  
層・マングン含む
- 4 7.5M5/4に近い層 粘質シルト

24小穴・35柱穴

(S)



24小穴

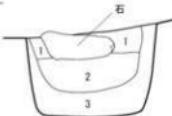
35柱穴

(N)  
T.P. = 120.5m

- 1 10YR5/3に近い、黄褐色粘土+粗砂  
層・礁土・マングン・鉄分含む
- 2 10YR5/4に近い、黄褐色粘土+粗砂 層・礁土・マングン含む(斑駁)
- 3 10YR4/6(褐色粘土+粗砂 層・礁土・マングン含む(斑駁))
- 4 10YR4/2(黄褐色粘土+粗砂 層・礁土・マングン含む(斑駁))
- 5 10YR4/3に近い、黄褐色粘土+シルト 層・礁土・マングン含む(斑駁)
- 6 10YR5/4に近い、黄褐色粘土 层・礁土・マングン含む
- 7 10YR5/3に近い、黄褐色粘土 层・礁土・マングン含む
- 8 10YR5/2(黄褐色粘土 层・礁土・マングン・鉄分含む

32柱穴

(S)



- 1 10YR3/4(暗緑) 粘質土+細砂 泥土・炭・マングン含む
- 2 10YR4/3に近い 黄褐色 粘質土+粗砂・マングン・礁含む
- 3 10YR5/2(灰) 黄褐色 粘質土+粗砂 泥土含む

88柱穴

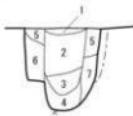
(N)

(S)  
T.P. = 120.5m

- 1 10YR4/6(褐色粘土・マングン)含む
- 2 10YR4/3に近い、黄褐色粘質土+マングンや多く含む
- 3 10YR4/3に近い、黄褐色粘土+細砂・マングン含む
- 4 10YR4/4(褐色粘土)・礁含む
- 5 10YR5/4に近い、黄褐色粘質土・礁・礁土・マングン含む

92柱穴

(N)

(E)  
T.P. = 120.5m

- 1 2. 10Y5/4黄褐色粘質シルト 鉄分多く含む
2. 10Y5/4黄褐色粘シルト 鉄分含む  
マングン少含む
3. 10Y6/4に近い 黄褐色質シルト 鉄分や多く含む
4. 10Y5/4黄褐色質土+シルト+細砂 鉄分含む
5. 10Y6/4に近い 黄褐色シルト・マングン・鉄分含む
6. 10Y6/6オリーブ色粘質シルト 鉄分全体に多く含む
7. 10Y6/6オリーブ色粘質シルト+細砂  
鉄分全体に少量含む

106柱穴

(N)

(E)  
T.P. = 120.5m

110柱穴

(N)

(S)  
T.P. = 120.5m

- 1 10YR6/2(黄褐色粘シルト) 鉄分含む  
マングン鉄・鉄分や多く含む
- 2 10YR5/3に近い、黄褐色粘土  
マングン少含む
- 3 10YR5/2(黄褐色粘土)  
マングン少含む

0 1.20 05m

図 12 その他の遺構土層断面図

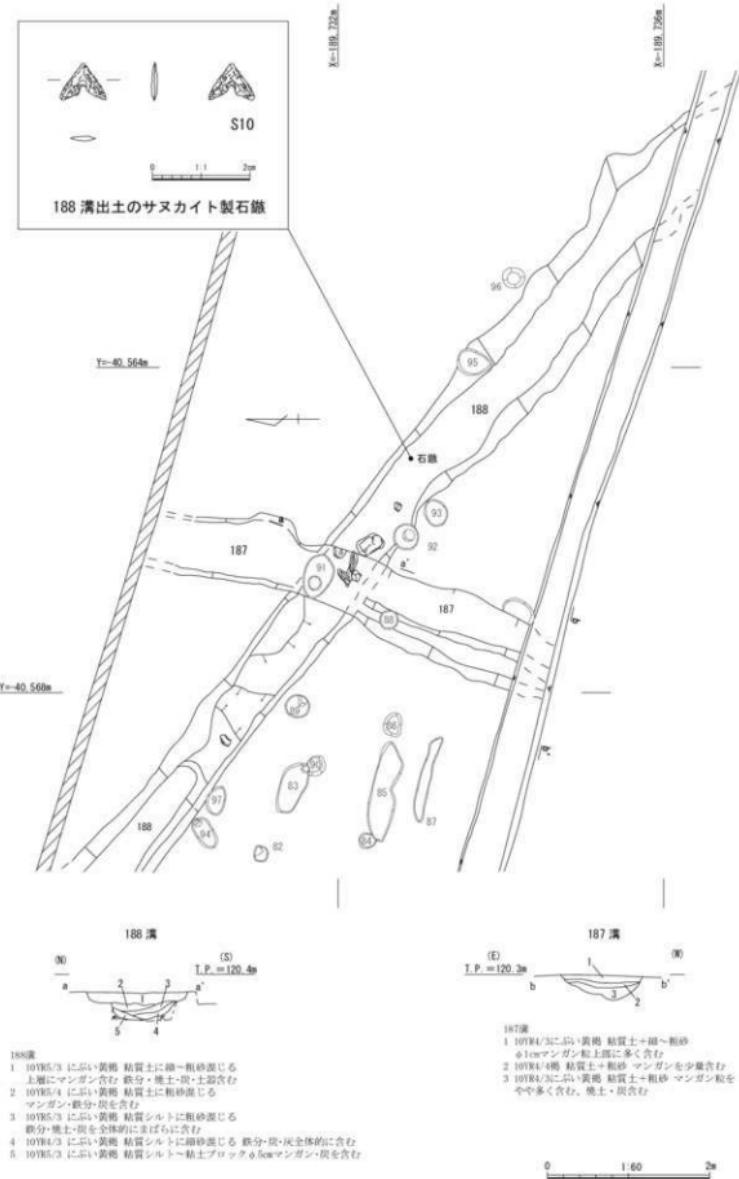


図 13 187 溝・188 溝平面図・土層断面図及び出土遺物実測図

**179溝**（図14 写真図版6・9・10） 調査区やや中央、F 8-q 7・8区に位置する。残存長1.80m以上、最大幅1.00mの南北方向の溝である。南側は調査区外に続くと思われるが、北側は収束しているので、土坑もしくは落ち込みの可能性もある。土師器皿(57)、底部に糸切り痕のある土師器皿(58)、瓦器椀(66)等が出土している。

**187溝**（図13 写真図版7） 調査区中央、F 8-q 8・9、r 9区に位置する南北方向の溝である。残存長4.60m以上、幅0.75～0.90m、深さ0.10～0.13mで、南から北方向に水が流れていたと考えられる溝である。T.P.+120.30mで検出した。188溝が埋没した後、掘削されて溝として使用されたと考えられる。埋土は、細砂混じりのにぶい黄褐色粘質土に中層として粗砂混じりの褐色粘質土を含む。鎌倉時代から室町時代の土師器皿、瓦器椀等が出土したが、細片のため図化はできなかった。

**188溝**（図13 写真図版7・10） 調査区中央、F 8-s 7、r 7・8、q 8・9、p 9・10区に位置する東西方向の溝である。残存長15.00m以上、幅0.70～1.00m、深さ0.20～0.30mの、南東から北西方向に水が流れている溝である。埋土は、上層が砂混じりのにぶい黄褐色粘質土、下層が砂混じりの黄褐色粘質シルトである。鎌倉時代から室町時代の土師器皿、瓦器椀等が出土したが、細片のため図化はできなかった。底部から縄文時代のサヌカイト製打製無茎石鏃(S10)が出土しているが、埋没過程で混入したものと考えられる。この188溝が埋没した後、187

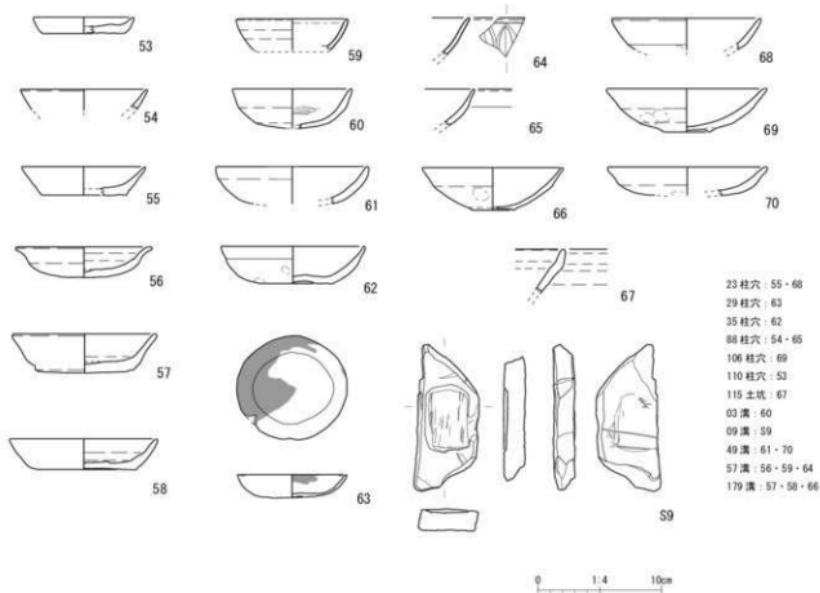


図14 その他の遺構内出土遺物実測図

溝が新たに掘削された。

**遺物**（図6・11・14 写真図版8～10） 遺構内から出土した遺物については、柱穴、土坑、溝から須恵器、土師器、瓦器、中国製磁器、石器、石製品が出土した。

29柱穴から灯明皿と見られる土師器皿(63)、35柱穴から土師器皿(62)が、いずれも完形の土師器皿が底部近くで出土しており、何らかの地鎮に関わるもの可能性もある。9溝では、結晶片岩製の硯(S9)が出土した。長さ12cm、幅6cmの平面形が台形の板石を使用している。中央に墨池(海)として削って窪ませている。57溝の埋土からは、中国製白磁皿(59)が出土している。58土坑から出土した口縁端部の軸を口禿げした白磁皿(43)と同様のものと思われる。

遺物包含層から出土したものでは、第1～2層、第2層、第3層上面から、土師器皿、瓦器椀、青磁碗、白磁皿等を取り上げた。

特に、遺構面である第3層上面を精査中に、土師器皿を灯明皿に使用したもの(1)、土師器皿(2・3)、瓦器椀(14～17)といった日常雜器の中から、中国製青磁蓮弁文の碗(7～11)の破片、白磁皿の口縁部と底部が出土した。縄文時代のサヌカイト製打製無茎石鏃(S1)が1点出土しているが、混入品と思われる。

第1～2層の遺物包含層中からも、土師器皿(22～30)や瓦器椀(31～33)に混じって、平たい楕円形の石の上下端部を打ち欠いて紐掛け部としている石錘(S2)や縄文時代のサヌカイト製打製有茎柳葉形石鏃(S4)、砥石(S3)等が出土している。

## 第5章　まとめ

今回の調査においては、掘立柱建物跡1棟、建物を構成するものと認定できなかった多数の柱穴、多くの中世土器・中国製磁器・滑石製石鍋が出土した土坑1基、焼土や炭を多く含む土坑1基、その他の多くの土坑、溝8条等を確認できた。

入郷遺跡は、縄文時代後期のサヌカイト製石鏃等の散布地として知られていたが、これらの遺構や遺物より新たに鎌倉時代から室町時代の集落関連遺構が展開することが確認された。調査区外にも、掘立柱建物跡や溝等の遺構が続くとみられることから、遺構が展開する範囲はさらに広がるものと思われる。

調査区西側で確認された18土坑と58土坑は、焼土や炭、灰混じりの埋土の中から、生活雜器である土師器皿、瓦器椀、土師器羽釜の破片が多く出土した。出土した遺物は完形に近いものが多く、土坑の底部と底部から0.1mほど上の地点で遺物の出土が集中したことから、周辺に居住していた人々により形成された廃棄土坑であると思われる。

遺構や遺物包含層から、複数の中国製青磁碗や白磁皿、温石に転用した滑石製石鍋等が出土したことにより、一般的な集落ではなく、高野山や慈尊院との関わりのある比較的身分の高い人々の集落であった可能性がある。

### 【参考文献】

- 和歌山井堰研究会編（2002）「紀ノ川流域堤防井堰等調査報告書Ⅰ（橋本市・伊都郡編）」
- 九度山町史編纂委員会編（2009）「九度山町史 通史編」
- 和歌山県教育委員会（2020.3）「和歌山県埋蔵文化財調査年報—令和2年度—」

表1 出土遺物観察表(土器)

順位 登記 番号	日本 古文書 番号	実測 番号	目録 番号	地区	地層 層位	地質 層位	法 規(cm)			残存率	形態・特徴	地 土	焼成	色 調	備 考	
							口径	高さ	底径							
1	666 写真図85	61	4	GB	a-b6~8	第3層上面	土頭層 田	(8.1)	1.5	(5.2)	50%	縫底のため底堅手削痕、内面 うっすら付着	赤 土 内・外・焼成白 少量含む	良好	引鉛復元 刀印有り 13世紀後半から 14世紀前半	
2	666 写真図86	36	108	GB	d6~7 d6~7	(19~21層) 第3層上面	土頭層 田	(8.2)	1.4	(6.3)	25%	口縁ヨコナデ、外周部に 凹凸、内面に削痕、内面 用いとテナガ、縫底のため 底堅手削痕	赤 最 大2mmの 縫底のため 内面に削痕化和テ ナ付着	良好	内・外・焼成白 13世紀後半から 14世紀初め	
3	666 写真図86	54	379	FB	s/q9~10	第3層上面	土頭層 田	(12.0)	3.2	8.1	70%	底堅手削り跡、縫底のため 底堅手削痕	赤	良好	内・外・焼成白 内・外・黄褐色 13世紀	
4	666 写真図86	49	105	GB	a6~5	(14~15~16 第3層上面)	土頭層 田	(12.0)	(2.3)	-	5%以下	口縁ヨコナデ、内外周部オ サエヨコナデ	赤 1~4mmのザ ートク量含む	良好	内・外・焼成白 13世紀	
5	666 写真図86	11	2	GB	c5~5	第3層上面	土頭層 田	(12.3)	2.9	(8.0)	20%	口縁ヨコナデ、外周部ビ リヤー、内面に削痕化和テ ナ付着	赤 細かい赤褐色 少量含む	良好	内・外・焼成白 13世紀	
6	666 写真図86	29	10	GB	a5~7 b5~7	第3層上面	青磁 小鏡	(9.2)	(3.1)	-	20%	内外周の地が剥離	赤	良好	引鉛オーリーブ 13世紀後半	
7	666 写真図86	16	107	GB	a-b6	(18~19層) 第3層上面	青磁 鏡	(16.0)	(2.6)	-	5%以下	口縁ヨコナデ、内面に削 痕化和テナ付着	赤 縫底付着	良好	縫底オーリーブ 13世紀後半から14 世紀前半	
8	666 写真図86	21	3	GB	d5~5 c5~5	第3層上面	青磁 鏡	(16.0)	(3.5)	-	5%以下	外周：縫底付着	赤	良好	縫底オーリーブ 13世紀後半から 14世紀前半	
9	666 写真図86	20	3	GB	d5~6 c5~6	第3層上面	青磁 鏡	(16.0)	(5.0)	-	5%以下	外周：縫底付着、二次焼成 受けている	赤	良好	縫底オーリーブ 13世紀後半から 14世紀前半	
10	666 写真図86	41	10	GB	a5~7 b5~7	第3層上面	青磁 鏡	-	(2.2)	-	5%以下	外周：縫底付着	赤	良好	縫底オーリーブ 13世紀後半から 14世紀前半	
11	666 写真図86	43	62	GB	c6~5	第3層上面	青磁 鏡	-	(2.4)	-	5%以下	外周：縫底付着	赤	良好	縫底オーリーブ 13世紀後半から 14世紀前半	
12	666 写真図86	32	76	FB	s/q9~m9	第3層上面	白磁 田	(5.7)	(2.6)	-	5%以下	口縁側剥離	赤 黒褐色 淡成白	良好	反転復元 13世紀後半から 14世紀前半	
13	666 写真図86	22	3	GB	d5~6 c5~6	第3層上面	白磁 田	-	(0.9)	(5.5)	表面 30%	外周部剥離	赤	良好	黒・茶・灰白 縫底に赤・黄褐色 13世紀後半から 14世紀前半	
14	666 写真図86	12	2	GB	d5~5	第3層上面	瓦面 鏡	-	(3.2)	-	5%以下	口縁ヨコナデ、外周部ビ リヤー、内面へラフカ か、縫底のため底堅手削痕	赤	良好	内・外・ 焼成白	
15	666 写真図86	35	106	GB	a6~7 b6~7	(19~21層) 第3層上面	瓦面 鏡	(11.1)	(2.2)	-	口周部 10%	口縁ヨコナデ、外周部ビ リヤー、内面へラフカ か、縫底のため底堅手削痕	赤 サエナダ 二重焼成付着	良 好	内・外・一回 焼成白・明褐色 縫底付着	反転復元 13世紀後半
16	666 写真図86	15	70	FB	t-s7~9	第3層上面	瓦面 鏡	(12.0)	(2.6)	-	5%以下	口縁ヨコナデ、外周部ビ リヤー、内面へラフカ か、縫底のため底堅手削痕	赤 細かい白色粉 少量含む	良好	内・外・一回 焼成白	反転復元
17	666 写真図86	33	76	FB	s/q9~m9	第3層上面	瓦面 鏡	(14.0)	(3.0)	-	5%以下	口縁ヨコナデ、外周部ビ リヤー、内面へラフカ か、縫底のため底堅手削痕	赤	良好	内・外・焼 成白	反転復元
18	666 写真図86	56	37	FB	m10~11 m10~11	第3層上面	土頭層 土壁	-	(2.1)	-	5%以下	口コナデ	赤	良好	内・外・ 焼成	13世紀後半
19	666 写真図86	30	67	GB	a6~b6	第3層上面	青磁層 瓦面	-	(2.8)	-	5%以下	口輪アーチ、口縁側自然剥 離付着	赤 少量含む	良好	内・外・ 焼成	13世紀後半
20	666 写真図86	66	12	FB	r7	第3層上面	土頭層 土壁	(26.1)	(2.2)	-	5%以下	口縁ヨコナデ	赤 1.5mm以下の 黒・赤褐色化多 量含む	良好	内・外・ 焼成	反転復元
21	666 写真図86	31	76	FB	s/q9~m9	第3層上面	青磁層 瓦面	(26.0)	(3.7)	-	5%以下	口輪アーチ	赤 細かい白色粉 少量含む	良好	内・外・ 焼成白・灰	反転復元
22	666 写真図86	73	309	FB	u7 (v7無)	第2層	瓦面	(8.6)	1.3	(6.1)	25%	口縁アーチ、口縁側自然剥 離付着	赤 少量含む	良好	内・外・ 焼成	13世紀後半 刀印有り
23	666 写真図86	7	41	FB	s/q10~h10	第2層	土頭層 田	(9.0)	(1.5)	1.5	口周部 10%	口縁ヨコナデ、外周部削 離付着	赤 やや赤 2mm以上の 黒・赤褐色化多 量含む	良好	内・外・ 焼成	反転復元
24	666 写真図86	23	20	FB	t7~s7	土頭 第1~2層中	土頭層 田	-	(1.0)	(0.9)	底径 15%	外周部、外周部削 離付着、内面底堅手削 痕	赤 細かい赤褐色 少量含む	良好	内・外・ 焼成	反転復元 13世紀後半
25	666 写真図86	27	58	FB	t12~t13	第2層	土頭層 田	(10.4)	1.6	(0.9)	10%	口縁ヨコナデ、内面ヨコ サエヨコナデ	赤 縫底、内面ヨコナデ 少量化含む	良好	内・外・ 焼成	反転復元 13世紀後半
26	666 写真図86	24	58	FB	t12~t13	第2層	土頭層 田	(10.0)	1.4	(7.0)	25%	口縁ヨコナデ、内面削離 付着	赤 4mmの大チャ ーと内面削離 付着、内面ヨコナ デ、全体的にスリット	良好	内・外・ 焼成	反転復元
27	666 写真図86	75	318	FB	q9	下層壁型(?) 第3層上面	土頭層 田	(12.1)	2.3	-	50%	口縁ヨコナデ、内面削離 付着、全体的にスリット	赤 縫底や多く含む	良好	内・外・ 焼成	反転復元 刀印有り
28	666 写真図86	74	309	FB	u7 (v7無)	第2層	瓦面	(10.3)	(3.0)	-	10%	内面削離一体ヨコナデ、 内面削離付着とヨコナデサエ ナデ	赤 1.5mm以下の 黒・赤褐色化多 量含む	良好	やや軟 内・外・ 焼成	13世紀後半から 14世紀前半
29	666 写真図86	72	309	FB	u7 (v7無)	第2層	瓦面	(13.1)	(2.9)	-	10%	口縁ヨコナデ、内面削離 付着	赤 内面削離 付着	良好	やや軟 内・外・ 焼成	反転復元 13世紀
30	666 写真図86	79	318	FB	q9	下層壁型(?) 第3層上面	瓦面	(13.7)	(3.7)	-	15%	口縁ヨコナデ、内面削離 付着	赤 1~2mmの黒色 和少量含む	良好	内・外・ 焼成	反転復元 13世紀
31	666 写真図86	26	58	FB	t12~t13	第3層上面	瓦面	(14.0)	(2.5)	-	5%以下	口縁ヨコナデ、内面削離 付着	赤 内・外・ 焼成	良好	内・外・ 焼成	反転復元 13世紀

報告 順序 番号	固・ 液相 別	測定 番号	登録 番号	地区	過濾 部位	被検 部位	法 量(cm)			残存率	可溶・ 沈渣	地 土	焼成	色 調	備 考	
							口徑	高さ	底面							
32	固6 液6 等6	13	29	FB	p-q8-9	第1～2層	瓦面 板	(14.0)	(2.8)	-	口徑部(10%)	口縫隙ヨコナダ、外周コピオ スエビナダ、内面ウラジリナ カ、燒成のため過剰干燥	砂	灰好	内・外灰 焼成白	反転復元
33	固6 液6 等6	66	316	FB	q-r7-8	下部堅硬部分 第3層上面	瓦面 板	(13.4)	3.2	(3.7)	25%	口縫隙ヨコナダ、外周コピオ スエビナダ、内面ウラジリナ カ、燒成のため過剰干燥	やや暗、4mm以下 の白色粒多 量含む	灰好	内・外灰 焼成白	反転復元 13世紀後半から 14世紀初頭
34	固6 液6 等6	25	58	FB	i12-13	帶輪溝 第3層上面	瓦面 板	-	(3.3)	-	5%以下	口縫隙ヨコナダ、外周コピオ スエビナダ、内面ウラジリナ カ、燒成のため過剰干燥	砂	灰好	内・外灰 焼成白	13世紀後半から 14世紀初め
35	固6 液6 等6	14	47	FB	p8-q8	北壁、第1～ 3層	带輪溝 等6	(27.0)	(4.4)	-	5%以下	口縫隙ヨコナダ、外周コピオ スエビナダ、内面ウラジリナ カ、燒成のため過剰干燥	砂、細かい白色粒 半量含む	灰好	内・外灰 焼成白一灰	反転復元 13世紀
36	固11 液11 等11	4	372	GB	d6	18土坑	土顕面 小山	(8.6)	(1.6)	(7.0)	31%	口縫隙ヨコナダ、外周ウラ ジリナダ、内面アラ ス	やや暗、1m以下 の白色粒多 量含む	灰好	内・外焼 成白	内・外焼 成白
37	固11 液11 等11	2	282	GB	a6	5#土坑	土顕面 小山	(9.0)	(1.6)	(7.4)	41%	口縫隙ヨコナダ、内面コロ ナダ、外周ウラジ リナダ	やや暗、2mmの粗 粒白色、1m以下 の白色粒化粧 層含む	灰好	内・外焼 成白	内・外焼 成白
38	固11 液11 等11	8	260	GB	a6	5#土坑	土顕面 小山	(8.6)	1.2	(6.2)	22%	口縫隙ヨコナダ、内外面コロ ナダ	やや暗、1～2mmの 白色粒少 量含む	灰好	内・外・熟 成白	反転復元
39	固11 液11 等11	60	223	GB	a6	5#土坑	土顕面 小山	(10.6)	2.9	-	40%	口縫隙ヨコナダ、燒成のため 過剰干燥	砂	灰好	内・外・熟 成白	一部反転復元
40	固11 液11 等11	10	260	GB	a6	5#土坑	土顕面 小山	(12.0)	(3.4)	(4.6)	18%	口縫隙ヨコナダ、内面コロ ナダ、外周ウラジ リナダ	やや暗、2mm以下 の白色 粒化粧 層含む	灰好	内・外・熟 成白	内・外・熟 成白
41	固11 液11 等11	62	249 [108-126]	GB	a6	5#土坑	実骨堆 疊	(5.3)	(5.5)	-	30%	口縫隙ヨコナダ、外周ウラジ リナダ、内面輪郭シボリ痕 跡	砂、1m以下 の白色 粒化粧 層含む	やや暗	内・外・熟 成白	反転復元
42	固11 液11 等11	63	283	GB	a6	5#土坑	実骨堆 疊	-	(7.3)	(20.1)	5%	外周堅板工法によるケズ ル、外周ウラジリナダ、内面 コロナダ、内面輪郭シボリ痕 跡	やや暗、1.5m以下 の白色粒化粧 層含む	灰好	内・外・伝 統的	反転復元
43	固11 液11 等11	50	367 [108- 224-123 -343]	GB	a6	5#土坑	白塗 面	(6.9)	2.7	(5.2)	50%	口縫隙ヨコナダ、外周コロ ナダ	砂	灰好	熟・白塗 灰の灰白 化粧	反転復元
44	固11 液11 等11	65	343	GB	a-b6	5#土坑	土顕面 小山	(8.5)	1.3	(6.3)	40%	内面ナスカス付、内面 コロナダ、内面輪郭シボリ痕 跡	やや暗、2mm以下 の白色 粒化粧 層含む	灰好	内・外・熟 成白	反転復元
45	固11 液11 等11	1	281	GB	a6	5#土坑	土顕面 小山	9.0	1.5	-	62.5%	口縫隙ヨコナダ、外周コロ ナダ、内面ウラジ リナダ	砂、1m以下 の白色 粒化粧 層含む	灰好	内・外・熟 成白	灯明田
46	固11 液11 等11	5	370	GB	d6	18土坑	瓦面 板	12.2	3.6	4.0	87.5%	口縫隙ヨコナダ、外周コロ ナダ、内面ウラジ リナダ	やや暗、1m以下 の白色 粒化粧 層含む	灰好	内・外・熟 成白	内・外・熟 成白
47	固11 液11 等11	64	374	GB	a6	5#土坑	瓦面 板	-	(1.1)	2.4	8%	口縫隙ヨコナダ、外周コロ ナダ、内面ウラジ リナダ	砂台面、一些の白色 粒化粧 層含む	灰好	内・外・熟 成白	内・外・熟 成白
48	固11 液11 等11	19	118	GB	a6	1#土坑	瓦面 板	(14.0)	3.0	(5.3)	10%	口縫隙ヨコナダ、外周コロ ナダ、内面ウラジ リナダ	砂、細かい白色粒 半量含む	灰	内・外白一 灰	反転復元 13世紀後半から 14世紀初め
49	固11 液11 等11	51	374 [325-248]	GB	a6	5#土坑	瓦面 板	12.1	3.7	(3.5)	90%	口縫隙ヨコナダ、外周コロ ナダ、内面ウラジ リナダ	砂、1m以下 の白色 粒化粧 層含む	灰好	内・外 熟成白	13世紀後半から 14世紀初め
50	固11 液11 等11	80	373	GB	a6	5#土坑	土顕面 小山	(28.4)	(13.0)	-	口縫隙 30%	口縫隙ヨコナダ、外周コロ ナダ、内面ウラジ リナダ	砂、1m以下 の白色 粒化粧 層含む	灰好	内・外 熟成白	反転復元
51	固11	52	371 [331-347-340]	GB	b6	1#土坑	带輪溝 等6	(16.2)	7.7	(7.7)	30%	ロフに見えるナダ、直輪溝 等6	やや暗、2.5m以 上の白色 粒化粧 層含む	やや暗	内・外 熟成白	13世紀
52	固11	17	246 [139-24 341-342 259-38]	GB	a6	5#土坑	带輪溝 等6	(27.0)	(6.7)	-	20%	口縫隙、外周凹輪ナダ、内面 堅板工法によるナダ	砂、細かい白色粒 半量含む	灰好	内・外 熟成白	反転復元 13世紀
53	固14 液14 等14	76	360	FB	c9	110-114土坑	土顕面 小山	(8.0)	1.3	(6.4)	25%	口縫隙ヨコナダ、外周コロ ナダ	砂、3mの大穴 と1m以下の小穴の 白色粒化粧 層含む	灰好	内・外に 凹・凸 の堆積	反転復元
54	固14	59	166	FB	q9	88#穴	土顕面 板	(10.1)	(1.7)	-	口縫隙 10%	ヨコナダ、二次焼成か	砂、細かい白色粒 半量含む	灰好	内・外に 凹・凸 の堆積	反転復元
55	固14 液14 等14	9	258	FB	y7	23#穴	土顕面 板	(10.0)	2.3	砂	12.5%	口縫隙ヨコナダ、内面直輪 溝ナダ	やや暗、直径2m 以上の白色粒化 粧含む	灰好	内・外・熟 成白	反転復元 13世紀
56	固14 液14 等14	81	139	GB	a6	5#窓	土顕面 板	(10.7)	2.4	-	40%	内面と外面の縫隙ヨコナダ、外 周底面コロナダ	砂、1mの大穴の 白色粒化粧 層含む	灰好	内・外に 凹・凸 の堆積	反転復元
57	固14 液14 等14	78	301	FB	v8	179窓	土顕面 板	(11.3)	3.1	(7.8)	75%	燒成のため 過剰干燥	砂、2.5mの大穴 と1m以下の白色 粒化粧 層含む	灰好	内・外・熟 成白	一部反転復元
58	固14 液14 等14	77	301	FB	r8	179窓	土顕面 板	11.8	2.4	8.4	80%	外周直輪溝切り底、その 上ヨコナダ	砂、1m以下 の白色 粒化粧 層含む	灰好	内・外相	13世紀後半から 14世紀初め
59	固14 液14 等14	53	139	GB	a6	5#窓	白塗 面	(8.7)	(2.5)	-	口縫隙 10%	口縫隙ヨコナダ	砂	灰好	熟成灰 白色粒化 粧含む	反転復元

報告 順号	写真 番号	測定 番号	目録 番号	地区	遺構 位置	被削 面相	法 量(cm)			残存率	形態・技法	地 土	焼成	色 調	備 考		
							口幅	幅	厚さ								
60	図14 写真回数10	57	+94	GB	c-d5-6	3周	土師陶器	(9.5)	(3.2)	-	30%	外面部コロナデ、外面部コロナデ、内面部コロナデ、内面部コロナデ、被削のための鉄子削り	帯	内に赤い色斑点が、外側に白い色斑点が	良好	内に赤い色斑点が、外側に白い色斑点が	反転復元
61	図14 写真回数10	69	146	FB	v7	49周	土師陶器	(12.1)	(3.0)	-	15%	外面部コロナデヒビサエ等、内面部ヒビサエ等	帯	内に赤い色斑点が、外側に白い色斑点が	良好	内に赤い色斑点が、外側に白い色斑点が	反転復元
62	図14 写真回数10	6	369+133	FB	y7	35枚穴	土師陶器	(11.6)	(3.0)	(5.8)	口幅差 10%	口縁部コロナデ、外面部コロナデ、内面部コロナデ、内面部ヒビサエ等	やや帯	3mm程の白色と3mm程の赤色が混在する	良好	内に赤い色斑点が、外側に白い色斑点が	一部反転復元
63	図14 写真回数10	3	368	FB	x7	29枚穴	土師陶器	8.8	1.9	-	87.5%	口縁部コロナデ、外面部コロナデヒビサエ等、内面部ヒビサエ等	帯	1m以下の中赤色と少しある	良好	内に赤い色斑点が、外側に白い色斑点が	灯明面
64	図14 写真回数10	55	139	GB	a6	57周	青磁 陶	-	(0.1)	-	5%以下	外面部網状文	帯	内に赤い色斑点が、外側に白い色斑点が	良好	内に赤い色斑点が、外側に白い色斑点が	反転復元
65	図14 写真回数10	58	166	FB	q9	88枚穴	瓦陶	-	(3.0)	-	5%以下	口縁部コロナデ、外面部コロナデヒビサエ等、内面部ヒビサエ等	帯	新規な白色と半透明白	良好	内・外・新規白	
66	図14 写真回数10	82	302	FB	v7-8	179周	瓦陶	(11.2)	3.4	(3.2)	30%	口縁部コロナデ、外面部コロナデヒビサエ等、内面部ヒビサエ等	帯	1m以下の中赤色と少しある	良好	内・新規白	反転復元
67	図14 写真回数10	18	192	FB	o9	115枚穴	青磁 陶	-	(3.6)	-	5%以下	口縁部ナデ	帯	新規な白色と少しある	良好	内・新規白	13世紀
68	図14 写真回数10	28	258	FB	y7	23枚穴	瓦陶	(12.0)	(2.5)	-	口幅差 15%	口縁部コロナデ、外面部コロナデヒビサエ等、内面部ヒビサエ等	帯	1m以下の中赤色と少しある	やや帯	内に赤い色斑点が、外側に白い色斑点が	反転復元
69	図14 写真回数10	71	237	FB	o9	106枚穴	瓦陶	(12.0)	3.5	(3.6)	25%	外面部網状・体部ヒビサエ等ナデ、外面部ヒビサエ等ナデ	帯	内・外・新規白	良好	内・外・新規白	反転復元 13世紀
70	図14 写真回数10	70	147	FB	w-v7	49周	瓦陶	(12.0)	(2.3)	-	20%	口縁部コロナデ、外面部ヒビサエ等ナデ、内面部ヒビサエ等ナデ	帯	1m以下の中赤色と少しある	良好	内・新規白	一部反転復元
71	図14 写真回数10	67	354	GB	a5-6	16土坑	土師陶器	(8.7)	1.8	(6.3)	25%	内面部網状文コロナデ、内面部網状文コロナデヒビサエ等、土坑内側面と土坑底	帯	1m以下の中赤色と少しある	良好	内・外・新規白	反転復元

表2 出土遺物観察表(石器・石製品)

法量の( )内は復元した大きさ

報告 順号	写真 番号	測定 番号	目録 番号	地区	遺構 位置	被削 面相	法 量(cm)			重複(%)	残存率	石材	形態・技法			備 考	
							長さ	幅	厚さ								
51	図11 写真回数10	38	4	GB	b6-8 b6-8	第3槽上面	石製品 芯棒	(2.6)	(1.5)	0.25	70%	サスカイト	サスカイト製の打製削葉石頭。一端が欠損。			鐵文時代か	
52	図11 写真回数10	48	366	FB	q9	下蓋縫隙部分 第3槽上面	石製品 芯棒	15.2	5.9	1.9	257.18	90%	片岩	打arkan棒。半丸の上下面に打ち込みで組織的部をついたもの。			鐵文時代か
53	図11 写真回数10	45	318	FB	q9	下蓋縫隙部分 第3槽上面	石製品 芯棒	7.6	11.3	5.8	670.01	不明	碧岩	碧岩が台形で不規則形の砾石で埋め立てられたもの。一端に複数の凹溝があり、大谷が欠損していることから主体は手作。			
54	図11 写真回数10	39	242	FB	p-q8	第3槽上面	石製品 芯棒	4.0	1.0	0.3	1.54	100%	サスカイト	サスカイト製の打製削葉石頭。			多生時代か
55	図11 写真回数10	37	279	GB	a6	58土坑	石製品 砾石	(10.1)	(4.6)	-	157.94	100%	滑石	口縁部は凹込し、体部外側に周ぐにわたる直角正方形の溝があるも、圓錐や下がる。滑石削葉石頭に石頭を追加して加工したもの。			13世紀
56	図11 写真回数10	42	367	GB	a6	58土坑	石製品 砾石	5.5	12.3	1.5	157.62	100%	滑石	石頭の直角と削れられ、切り落とされて詳細は不明。滑石が石頭を追加して加工したもの。			
57	図11 写真回数10	44	223	GB	a6	58土坑	石製品 砾石	(9.0)	3.8	3.1	179.62	不明	碧岩	碧岩のうち、4箇所に絞り落とす。一部が欠損している。			
58	図11 写真回数10	47	367	GB	a6	58土坑	石製品 砾石	7.6	11.2	4.5	457.29	不明	碧岩	碧岩が直角で不規則形の砾石で埋め立てられたもの。一部に複数の凹溝があり、大谷。していることから主体は手作。			
59	図14 写真回数10	46	269	GB	c5	09溝	石製品 砾石	11.8	5.2	1.7	171.13	100%	綠色片岩	平滑な台形の綠色片岩の板石の中に碧岩を埋め込んだもの。			
60	図13 写真回数10	40	375	FB	q9	188溝	石製品 砾石	1.5	1.9	0.2	0.38	100%	サスカイト	サスカイト製の打製削葉石頭。			鐵文時代か



1. 調査区全景  
( 東から )



2. 南壁土層断面  
( 中央部・北から )



3. 南壁土層断面  
( 西部・北から )

写真図版 2

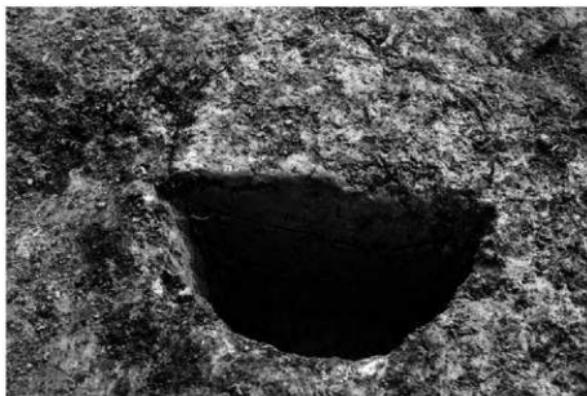
1 挖立柱建物跡



1. 1 挖立柱建物跡  
( 北西から )



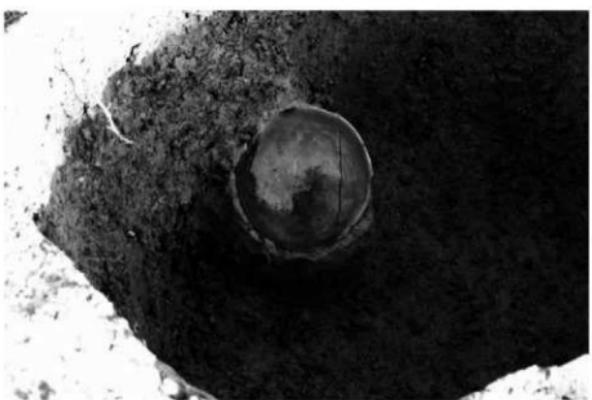
2. 60 柱穴  
( 1 挖立柱建物跡 )  
土層断面 ( 南から )



3. 70 柱穴  
( 1 挖立柱建物跡 )  
土層断面 ( 西から )



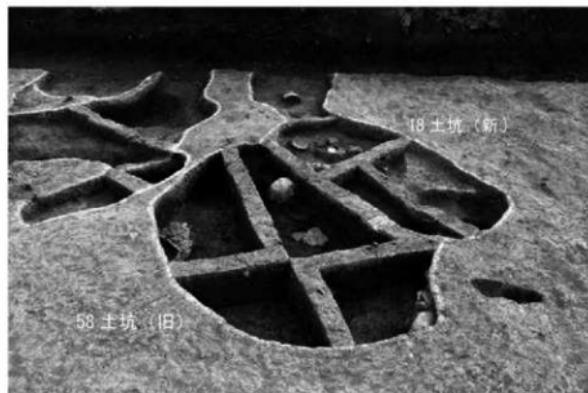
1.35 柱穴内 土師器皿出土状況  
(南から)



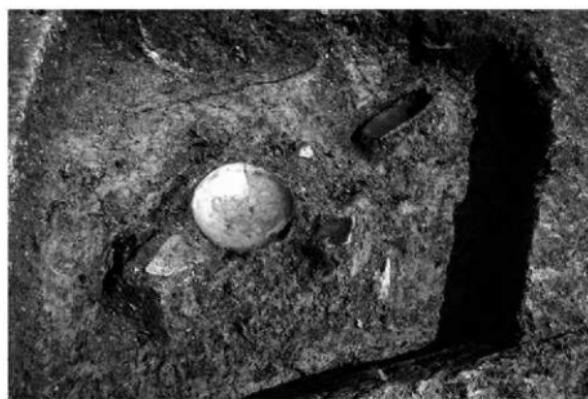
2.29 柱穴内 土師器皿出土状況  
(東から)



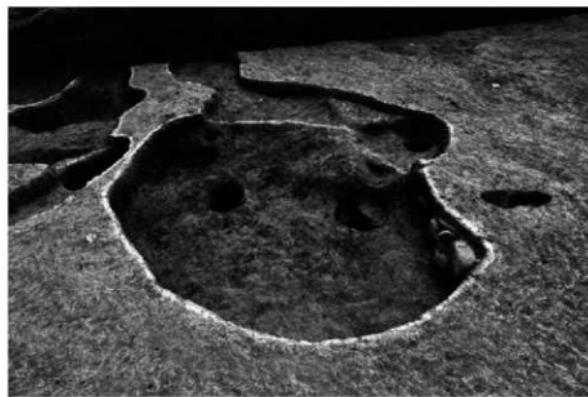
3.29 柱穴土層断面  
(南から)



1. 18・58 土坑内  
遺物出土状況  
(北から)



2. 18 土坑内  
瓦器出土状況  
(南から)



3. 18・58 土坑  
完掘状況(北から)



1. 調査区西部全景  
(西から)



2. 58 土坑出土の  
土師器羽釜 (50)  
(南から)



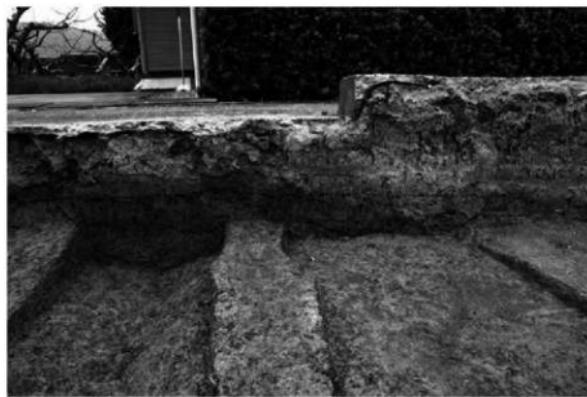
3. 92 柱穴 土層断面  
(南から)



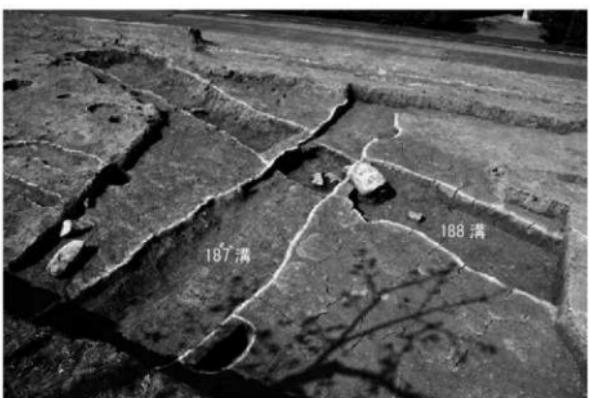
1.32 柱穴 石検出状況  
(西から)



2.141 溝・142 土坑  
土層断面（南から）



3.179 溝 土層断面  
(南から)



1. 187・188 溝 完掘状況  
(南から)

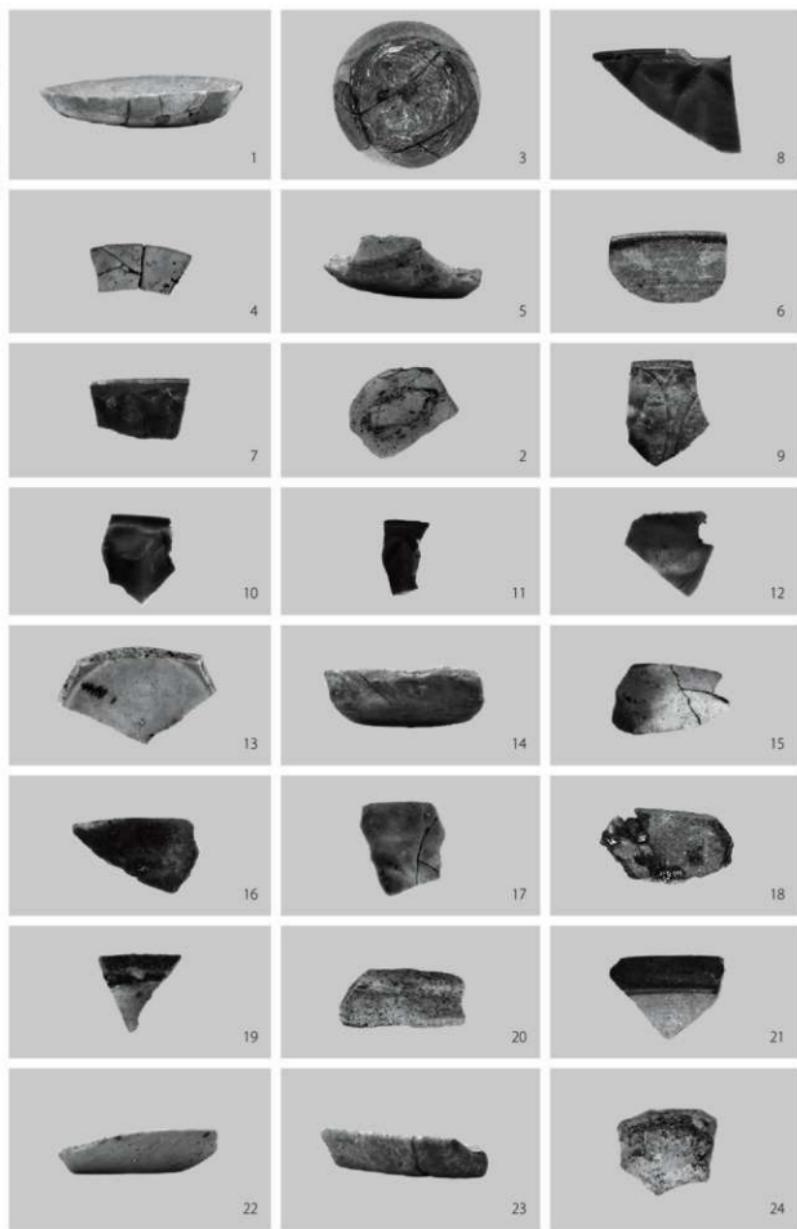


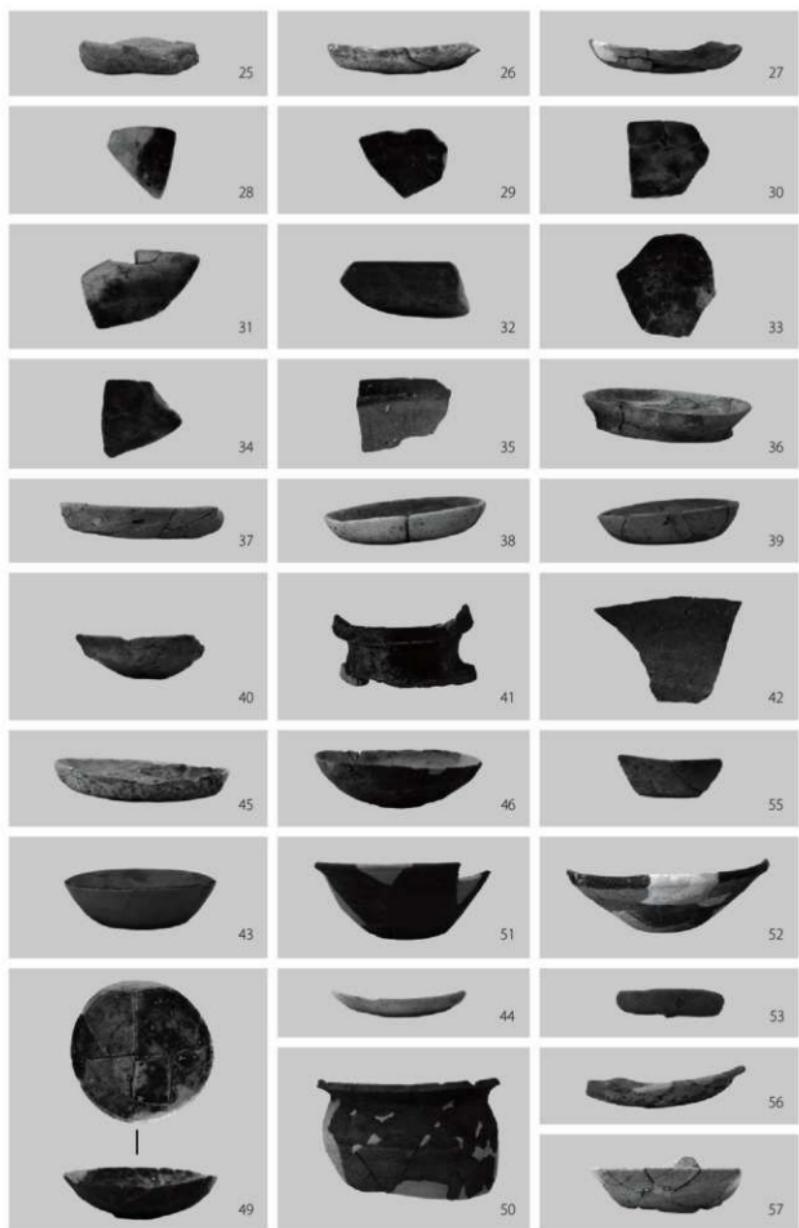
2. 187・188 溝 完掘状況  
(西から)

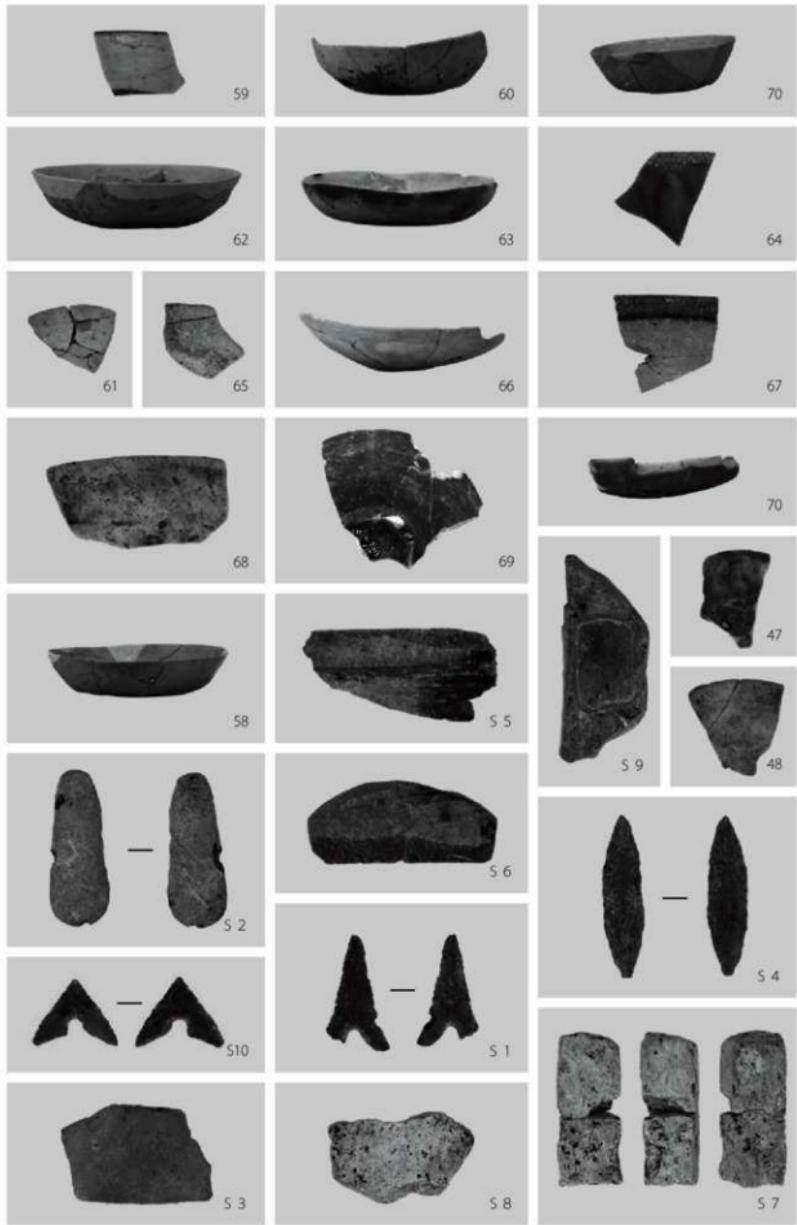


3. 188 溝 土層断面  
(西から)

写真図版 8  
出土遺物







## 報告書抄録

## 入郷遺跡

—町道 156・176 号線改良工事に伴う発掘調査報告書—

2023 年 3 月 15 日

編集・発行：公益財団法人和歌山県文化財センター  
〒 640-8301 和歌山県和歌山市岩橋 1263 番地の 1  
印刷・製本：白光印刷株式会社